

ダ東インド会社，オランダ通詞，医療宣教，幕末のコレラなど，II. 支えた人々では，カスパル・シャムベルゲル，沢野忠庵，シーボルト，ポンペ，ボードインなど．III. 影響を与えたモノでは，医療道具・医科器械，人体模型など，IV. 普及した書物では，ハルマ和解，パレとハイステル外科書，解体新書など，V. 研究教育の場では，蘭学塾，薬品会，薬園，長崎海軍伝習所など，VI. 近世学芸から近代学術へでは，外科，解剖，内科，小児科，種痘などがまとめられています．

地域篇では，各県ごとに洋学研究の現状をまとめ，医史学についても，できるだけ地域の医学のありかたや種痘などについて，叙述をしてあります．

こうして5年間で，221人の執筆者により，385項目におよぶ『洋学史研究事典』ができあがりました．巻末には，各地の洋学資料の主な保存機関を紹介してありますので，今後の研究の手掛かりにならうかと思われます．



このように『洋学史研究事典』は，医史学研究の皆さんにも，研究のヒントが多く得られる本なので，ぜひ座右においていただけたらと思います．

## 第34回矢数医史賞受賞をうけて

藤本 大士

日本学術振興会特別研究員PD／京都大学大学院

このたび、「第34回矢数医史学賞」に拙著『医学とキリスト教—日本におけるアメリカ・プロテスタントの医療宣教』（法政大学出版局，2021年）を選出いただき，誠にありがとうございます．私は修士課程の頃から日本医史学会に参加し，拙著のもとになった博士論文の一部を年会や例会，『日本医史学雑誌』上などで発表をおこなっておりましたので，今回，日本医史学会から賞をいただいたことは大変光栄です．

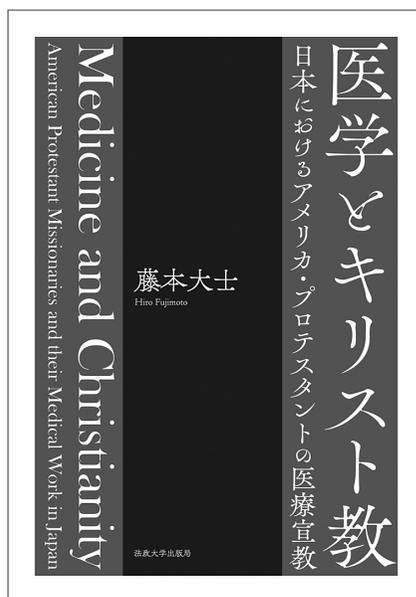
拙著は，アメリカ人プロテスタント宣教師による日本での医療宣教を，幕末から戦後にいたるまで注目して分析したものです．これまでの医学史の先行研究では，近代日本の医学界がドイツから強い影響を受けていたということが指摘されてき

ました．一方，ドイツ以外の西洋の国々は日本の医学界にどのような影響を与えたのだろうか，というのが拙著を書くきっかけとなった問いでした．そして，調べていくうちに，1900年頃までに来日した西洋人医師の中では，数の上ではドイツ人医師よりアメリカ人医師が多かったこと，そして，彼らアメリカ人医師のほとんどを占めていたのが医療宣教師と呼ばれる人たちであったことがわかりました．そのため，博士論文では，アメリカ人医療宣教師の活動を取り上げようと考えました．

アメリカ人医療宣教師の調査を進める上で一番助けとなったのが，日本医史学会の大先輩である長門谷洋治先生の研究でした．とくに，1900年頃

までに来日した医療宣教師を可能な限りすべて取り上げた、「近代日本における外人宣教医の研究」(『日本医史学雑誌』16巻1号, 1970年, 1-44頁)という論文は, 拙著の出発点となる論文でした。その出版から50年以上が経った今では, ミッション関係の資料は電子化が大きく進みましたが, 長門谷氏が研究されていた当時は, 資料も十分に整理されてなかったと思いますので, あの時代にここまでまとめられていることにあらためて敬服するところです。その後, 日本医史学会では, 宣教看護婦の研究をおこなってきた平尾眞智子先生をはじめとして, 医療宣教に関する研究成果が着実に生み出されてきました。そして, 拙著はそういった研究に大きく依拠しております。同時に, 先行研究が個別の宣教師の分析が中心であったことを踏まえ, 拙著では医療宣教師の全体像を描くことを試みました。

拙著は主にアメリカ人医療宣教師の活動を分析したため, 日本人クリスチャン医師がどういった働きをしていたかを十分に議論することが出来ず, それが拙著の課題として残りました。そのため, 拙著出版後は, 日本人クリスチャン医師の活動を調べはじめています。日本医史学会の会員の方には, まさにクリスチャン医師として活動してきた方も多いかと思いますし, 実際, 拙著を読み, そのことを私に教えてくださった先生もいらっしゃいます。今後もぜひそういった経験を直接お伺い出来ればと思っています。また, 今年度の日本医史学会年会では, JOCS(日本キリスト教海外医療協力会)という組織について報告しました。JOCSは1960年に組織されたもので, これまでに多くの日本人クリスチャンを医師や看護師などとして海外に派遣し, 医療協力を進めています。JOCSの医師としてとくに有名なのが, 2019年に凶弾に倒れた中村哲氏でしょう。また, JOCSでは女性医師や看護師の活躍が目立っています。これまでの医学史研究は男性医師の分析が中心で, 私のこれまでの研究も同じような傾向をもっていました。今後は, 国内外で活動した女性医師の調



査をさらに進めていきたいと考えています。

なお, 今回, 拙著と同時に洋学史学会監修『洋学史研究事典』(思文閣出版, 2021年)にも矢数医史学賞が与えられました。同書には私も「医療宣教」という記事を寄稿しております(この原稿の提出は2019年春でしたので, 同項目の参考文献に拙著を入れることは出来ませんでした)。同書の出版に際しては, 青木歳幸先生のリーダーシップによるところが大きかったと思います。青木先生はいつも若手研究者のことを気にかけてくださり, 実際に『洋学史研究事典』には多くの若手研究者が寄稿したり, あるいは, 校閲・校正に関わっています。私自身も, 日本医史学会や洋学史学会の年会や例会などに参加し, 青木先生にお目にかかった際は, いつも激励の言葉をかけていただいております。一言であったかもしれませんが, 学界のこともよくわかっていない大学院生にとっては, そういった言葉に大いに励まされました。そのため, 今回, 『洋学史研究事典』とともに, 矢数医史学賞を受賞することが出来たのは至極光栄でした。今後とも, 矢数医史学賞の受賞を励みとし, 研究を進めていきたいと思っています。